

野生生物等の生育・生息空間の確保

事例名	16. 空石積工法
工事名	長崎港環境整備工事
施行場所	長崎市 出島町・常盤町
事業年度	平成元年度～平成15年度
実施機関	港湾課、臨海開発局（現在：長崎港湾漁港事務所）
適応可能な事業	公園、漁港、道路、河川

<具体的な環境配慮内容>

公園内に運河を配置した。その水路護岸には、自然の石を利用し、目地をモルタル詰めしない「空石積」としている。このため、積み石と積み石の間には海水が出入りし、生態系の底辺を支える多くの微生物やカニなどの小動物のすみかとなっている。また、自然の潮汐により、波が砕けたり、石積みの隙間に出入りする時に泡を巻き込んで水中に酸素を十分に取り込み、水質の向上を図っている。さらに、河川河口部には、マイクロバブルを発生するエアレーション装置を設けて、水路内の溶存酸素量を改善し、同時に水路内の流動促進を促し、水質向上に努めている。

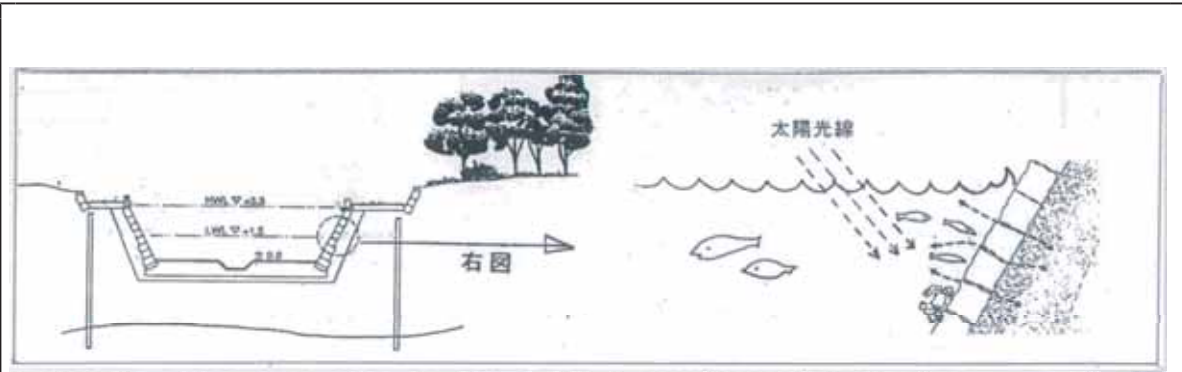
<環境配慮の目的と視点>

長崎港の緑地計画では、訪れた人が水に親しめる空間の創出のために公園内に運河を整備している。この運河にも生態系に配慮した施設づくりを目指している。

<環境配慮技術の概要>



公園内に運河を配置した「長崎水辺の森公園」



数多く小動物が生息する運河：水路護岸の断面図



「空石積」の水路護岸

< 環境配慮による効果 >

数多くの小魚、カニなどの生物が空石積護岸の中に生息している。ナマコも運河内で生息するようになった。

また、潮の満ち引きによる運河の浄化やエアレーション装置を設置したことによる悪臭や濁りの解消が出来、水生生物の活発な活動が観察されている。

< 同技術を採用した他の事例 >

工事名称	実施機関